

赤字は2005年度版からの変更部分

東京大学アクション・プラン2005 - 2008〔新旧対照表〕

| 項目 | 2006年度改定版 | |
|--|-----------|---|
| | 取扱 | |
| 教育 | | |
| - 1 東京大学の教育戦略の明示 | 追加 | |
| | 追加 | - 1 - 1 学部教育・修士課程・博士課程の基本的 位置付けの検討 |
| | 追加 | - 1 - 2 重点的に強化すべき分野の検討 |
| | 追加 | - 1 - 3 学校教育法改正を踏まえた教員組織の形 成 |
| - 2 理想の教養教育の追求 | | |
| - 1 - 1 学術俯瞰講義の開始 | 改定 | - 2 - 1 学術俯瞰講義の推進、全学的推進体制の 形成 |
| - 1 - 2 学術統合化プロジェクトの成果の教養教育 への還元など、先端的研究と学部前期 課程基礎教育の創造的連携の推進 | 同左 | - 2 - 2 学術統合化プロジェクトの成果の教養教育 への還元など、先端的研究と学部前期 課程基礎教育の創造的連携の推進 |
| - 1 - 3 基礎学力の強化と学志の向上をめざす平成 18年度新カリキュラム実施への全学的 支援、 生命科学機構 による教養教育支援、 全学体験ゼミナールの全学的支援 | 改定 | - 2 - 3 基礎学力の強化と学志の向上をめざす平成 18年度新カリキュラム実施への全学的 支援、 生命科学教育支援ネットワーク による教養教育支援、全学体験ゼミナール の全学的支援 |
| - 1 - 4 教養教育開発機構の強化と東京大学の教 養教育モデルの世界的発信 | 同左 | - 2 - 4 教養教育開発機構の強化と東京大学の教 養教育モデルの世界的発信 |
| | 追加 | - 2 - 5 教養学部の「理想の教育棟」と教育 IT 化の体制強化 |
| - 1 - 5 東大に入ってよかったと新入生が感ずる 駒場キャンパス学生用施設の整備 | 同左 | - 2 - 6 東大に入ってよかったと新入生が感ずる 駒場キャンパス学生用施設の整備 |
| - 3 知の構造化と融合領域の教育体制の創成 | | |
| - 2 - 1 知の構造化を体現した構造化カリキュラ ムを実現 | 同左 | - 3 - 1 知の構造化を体現した構造化カリキュラ ムを実現 |
| (1)「東京大学授業カタログ」に検索機能 を搭載して web 上で公開 | 同左 | A 「東京大学授業カタログ」に検索機能 を搭載して web 上で公開 |
| | 追加 | B すべての授業情報のデジタル・アーカイ ブ化 |

| | | |
|--|----|---|
| (2)UTOCW 事業の推進による知の公開及びカリキュラムの構造化とその可視化の推進、情報通信技術を活用した教育環境の整備の推進 | 同左 | C UTOCW 事業の推進による知の公開及びカリキュラムの構造化とその可視化の推進、情報通信技術を活用した教育環境の整備の推進 |
| - 2 - 2 大学院教育の抜本的充実 | 同左 | - 3 - 2 大学院教育の抜本的充実 |
| | 追加 | A 大学院教育振興施策要綱・大学院設置基準改正への対応 |
| (1)大学院修士課程カリキュラムの整備と構造化の推進 | 同左 | B 大学院修士課程カリキュラムの整備と構造化の推進 |
| (2)課程博士授与率の抜本的向上など博士課程教育の充実 | 同左 | C 課程博士授与率の抜本的向上など博士課程教育の充実 |
| (3)博士課程修了者の社会進出支援 | 同左 | D 博士課程修了者の社会進出支援 |
| - 2 - 3 学生の質の保証（成績・卒業認定の一層の厳正化、学業優秀者表彰など） | 同左 | - 3 - 3 学生の質の保証（成績・卒業認定の一層の厳正化、学業優秀者表彰など） |
| - 2 - 4 融合領域の教育体制創成とメジャー・マイナー制の導入 | 同左 | - 3 - 4 融合領域の教育体制創成とメジャー・マイナー制の導入 |
| (1)学部レベルでは経済学部金融学科構想、理学部生物情報学科構想、メディアコンテンツ学科構想などを検討 | 改定 | A 学部レベルでは経済学部金融学科構想、理学部生物情報学科構想、メディアコンテンツ学科構想などの具体化 |
| (2)サステナビリティ学連携研究機構、生命科学機構、ASNET 等の学部学科横断型組織の学部・大学院教育への参入 | 改定 | B サステナビリティ学連携研究機構、生命科学教育支援ネットワーク、ASNET 等の学部学科横断型組織の学部・大学院教育への参入 |
| (3)大学院レベルでの医工連携などの推進 | 同左 | C 大学院レベルでの医工連携などの推進 |
| - 2 - 5 起業を目指す学生・研究者の育成のための東京大学アントレプレナー道場の実施 | 改定 | - 3 - 5 起業を目指す学生・研究者の育成のための東京大学アントレプレナー（起業家）道場実施の定例化 |
| - 2 - 6 従来部局ごとに積算されてきた学生定員について全学的な管理政策を検討 | 同左 | - 3 - 6 従来部局ごとに積算されてきた学生定員について全学的な管理政策を検討 |
| - 4 連携型教育の積極的展開 | | |
| - 3 - 1 環境・エネルギー問題や計量経済学等の課題に取り組むための文理融合教育研究方法論の徹底的追求と組織整備 | 改定 | - 4 - 1 環境・エネルギー問題等の課題に取り組むための文理融合教育研究方法論の徹底的追求と組織整備 |
| - 3 - 2 人材育成・人材交流等多様な産学連携モデルの構築 | 同左 | - 4 - 2 人材育成・人材交流等多様な産学連携モデルの構築 |
| - 3 - 3 海外分校の可能性の検討も含めたグローバルな人材養成の展開 | 改定 | - 4 - 3 海外教育拠点の可能性の検討も含めたグローバルな人材養成の展開 |

| | | |
|---|----|--|
| - 5 「人間教育」とキャンパスライフの充実 | | |
| - 4 - 1 「人間教育」と学生の社会性の向上という視点をもった、学生の学習支援・メンタルケア・キャリアサポート体制の抜本的強化（学生支援センター構想） | 改定 | - 5 - 1 「人間教育」と学生の社会性の向上という視点をもった、学生の学習支援・メンタルケア・キャリアサポート体制の抜本的強化（学生支援センター構想）、 それに対応する事務体制の整備 |
| - 4 - 2 インターンシップの充実、人間教育のために社会へ協力要請 | 同左 | - 5 - 2 インターンシップの充実、人間教育のために社会へ協力要請 |
| - 4 - 3 学生の声を受け止め、不安に機敏に対処するシステムの形成、各キャンパス SOS システム、成績評価に対する異議申立や指導教員変更希望などに対処するシステムの整備 | 同左 | - 5 - 3 学生の声を受け止め、不安に機敏に対処するシステムの形成、各キャンパス SOS システム、成績評価に対する異議申立や指導教員変更希望などに対処するシステムの整備 |
| - 6 高度職業人教育・社会人向け教育の推進 | | |
| - 5 - 1 一般の大学院における職業人教育の見直しを行うとともに、専門職大学院、社会人を対象とした「エグゼクティブ教育プログラム」における高度職業人教育を推進 | 同左 | - 6 - 1 一般の大学院における職業人教育の見直しを行うとともに、専門職大学院、社会人を対象とした「エグゼクティブ教育プログラム」における高度職業人教育を推進 |
| - 5 - 2 IT を活用した自己学習支援 | 同左 | - 6 - 2 IT を活用した自己学習支援 |
| - 7 世界の東京大学にふさわしい学生の獲得 | | |
| - 6 - 1 「大学案内」を 作成 し、入試説明会を実施する | 改定 | - 7 - 1 「大学案内」を 活用 し、入試説明会を実施する |
| - 6 - 2 進学振り分け制度の改善、学部後期課程へのガイダンス強化 | 同左 | - 7 - 2 進学振り分け制度の改善、学部後期課程へのガイダンス強化 |
| | 追加 | - 7 - 3 学生表彰制度の充実 |
| - 6 - 3 大学院生、特に博士課程院生への奨学・奨励制度の抜本的充実 | 同左 | - 7 - 4 大学院生、特に博士課程院生への奨学・奨励制度の抜本的充実 |
| - 6 - 4 全世界、 とくに アジアからの優秀な留学生の獲得と、そのための戦略の構築・奨学金制度の充実、東大からの派遣留学制度の充実 | 同左 | - 7 - 5 全世界、 特に アジアからの優秀な留学生の獲得と、そのための戦略の構築・奨学金制度の充実、東大からの派遣留学制度の充実 |

| | | |
|-----------|----|-----------|
| 項 目 | 取扱 | 2006年度改定版 |
| 研究 | | |

| | | |
|---|---------|--|
| - 1 自律的・自発的研究の支援 | | |
| - 1 - 1 外部資金の有効活用によるボトムアップの研究の推進 | 同左 | - 1 - 1 外部資金の有効活用によるボトムアップの研究の推進 |
| - 1 - 2 部局が持っている概算要求関連のアイデア等について、その実現化を支援（文部科学省への要求、学内措置、社会からの支援獲得など） | 削除 | |
| - 1 - 3 基盤的学術図書の安定的確保 | 同左 | - 1 - 2 基盤的学術図書の安定的確保 |
| - 2 全学的新機軸研究へのチャレンジを総長室が牽引 | | |
| - 2 - 1 知の構造化を促進 | | - 2 - 1 知の構造化を促進 |
| (1)サステナビリティ学連携研究機構 | 改定 | A サステナビリティ学連携研究機構と Alliance for Global Sustainability |
| (2)Alliance for Global Sustainability | 改定 給 | B 生命科学教育支援ネットワークと生命科学 科学研究ネットワーク |
| (3)生命科学機構 | 改定 | C 新たな課題への取り組み |
| - 2 - 2 フロンティア領域の推進 | 同左 | - 2 - 2 フロンティア領域の推進 |
| (1)総括プロジェクト機構の充実 | 改定 | A 新規領域の開拓による総括プロジェクト機構の充実 |
| (2)学術統合化プロジェクト(ヒト、モノ、地球、宇宙)の推進と新規領域の開拓 | 改定 | B 学術統合化プロジェクト(ヒト、モノ、地球、宇宙)の推進 |
| | 追加 | C 高輝度放射光研究施設計画 |
| - 2 - 3 これらのプロジェクトの実施により柏キ ャンパスを活性化 | 番号変更 | D これらのプロジェクトの実施により柏 キャンパスを活性化 |
| - 3 近年実施した新機軸に対するレビューと将来計画の再構築 | | |
| - 3 - 1 大学院重点化、情報研究教育体制、柏キ ャンパス、駒場第二キャンパス | 同左 | - 3 - 1 大学院重点化、情報研究教育体制、柏キ ャンパス、駒場第二キャンパス |
| - 4 東大基金を活用した研究者支援 | | |
| - 4 - 1 優秀な若手研究者の研究体制の充実 | 改定 | - 4 - 1 若手研究者の自立を促進する体制の充実 |
| - 4 - 2 博士研究員の待遇の改善 | 改定 | - 4 - 2 博士研究員(ポスドク)の待遇の標準化 と誇りの持てるタイトルの付与 |
| - 4 - 3 玉原コンファレンスの開催 | 削除 | |
| - 5 附置研究所・センターにおける中核的学術機能の充実 | | |

| | | |
|--|----------|---|
| | 追加 | - 5 - 1 附置研究所・センターにおける研究機能の強化、特に全国共同利用のもののみでなく、我が国の研究を先導する中核的研究拠点においてはその拠点機能の充実 |
| - 5 - 1 研究とサービスのミッションの整理を含むセンター機能の高度化 | 改定 入替 | - 5 - 2 附置研究所・センターにおける優れた研究・教育成果の体系的発信 |
| - 5 - 2 附置研究所・センターにおける研究教育活動の推進 | 改定 入替 | - 5 - 3 センター機能の明確化と高度化 |
| - 5 - 3 附属病院を核とする研究教育活動の推進 | 改定 | - 5 - 4 附属病院の特性を生かした研究教育活動の推進 |
| - 6 交流と連携による新しいモデルへの挑戦 | | |
| - 6 - 1 未来社会や国際社会への貢献を意識した新たなアジェンダセッティング、「政策ビジョン研究センター」(仮称)や学際的・国際的な研究体制による政策提言を検討 | 改定 | - 6 - 1 高度な政策立案機能を持つ「政策ビジョン研究センター」(仮称)を設立し、未来社会や国際社会への貢献を意識した政策提言を実施することを検討 |
| - 6 - 2 ネットワーク型研究組織の活用 | 改定 | - 6 - 2 人文学と社会科学を中心とする「高等研究所」(仮称)を設立し、既存の制度的及び学問的枠組みから自由に、長期的かつ複合的視野で人類と社会の在り方を考察する学問拠点を構築することを検討 |
| - 7 公正で透明性の高い研究環境の構築 | | |
| | 追加 | - 7 - 1 「研究に関する行動規範」が遵守されるシステムの確立 |
| - 8 研究成果の社会への還元を加速 | | |
| - 7 - 1 ライセンスの多様化への対応 | 改定 | - 8 - 1 ライセンスの多様化への対応と実務蓄積(例:ライセンス対価としての株式等の取得) |
| - 7 - 2 事例の蓄積・分析に基づく知的財産の管理・活用の戦略性の向上 | 同左 | - 8 - 2 事例の蓄積・分析に基づく知的財産の管理・活用の戦略性の向上 |
| - 7 - 3 ベンチャーを利用した成果の活用の促進 | 改定 | - 8 - 3 ベンチャーを利用した成果の活用促進とそのためさらなるインフラ整備:東京大学ベンチャープラザ(仮称)の建設促進 |
| - 9 産学連携研究の更なる改革 | | |
| - 8 - 1 Proprius21 による共同設計方式の大型共 | 同左 | - 9 - 1 Proprius21 による共同設計方式の大型共 |

| | | |
|---|----|---|
| 同研究の推進 | | 同研究の推進 |
| - 8 - 2 産学連携研究の支援組織の整備 | 同左 | - 9 - 2 産学連携研究の支援組織の整備 |
| - 8 - 3 多様な産学連携スキームの積極的運用と新しい共同研究スキームの開発 | 同左 | - 9 - 3 多様な産学連携スキームの積極的運用と新しい共同研究スキームの開発 |
| - 8 - 4 産学間の人的交流の促進 | 同左 | - 9 - 4 産学間の人的交流の促進 |

| 項 目 | | 取 扱 | 2006年度改定版 |
|--|----|--|-----------|
| 国際的活動 | | | |
| - 1 部局との連携及び国際連携本部による海外活動の充実と本学の国際的プレゼンスの向上 | | | |
| - 1 - 1 世界トップクラスの大学・研究機関との連携と海外拠点の増強 | 改定 | - 1 - 1 世界トップクラスの大学・研究機関との連携と海外拠点・ラボラトリの増強 | |
| - 1 - 2 海外分校設置の検討 | 削除 | | |
| - 1 - 3 アジアの信頼獲得のための人的ネットワーク強化 | 同左 | - 1 - 2 アジアの信頼獲得のための人的ネットワーク強化 | |
| - 1 - 4 戦略的な国際交流ネットワークの構築と、そのための国際戦略ライブラリの作成・国際化推進長期構想の策定 | 同左 | - 1 - 3 戦略的な国際交流ネットワークの構築と、そのための国際戦略ライブラリの作成・国際化推進長期構想の策定 | |
| - 2 世界トップクラスの大学・研究機関との学生・研究者交流 | | | |
| - 2 - 1 外国人研究者滞在用住居（インターナショナル・ゲストハウス）の整備・外国語資料の充実など、留学生や外国人研究者のインセンティブを高める環境の整備 | 同左 | - 2 - 1 外国人研究者滞在用住居（インターナショナル・ゲストハウス）の整備・外国語資料の充実など、留学生や外国人研究者のインセンティブを高める環境の整備 | |
| - 3 柏国際キャンパスの構築に向けた取り組み | | | |
| - 3 - 1 世界トップクラスの研究施設整備、並びに、外国人研究者・留学生のための宿舎の整備、地域と連携した生活支援体制の構築などキャンパスの国際化推進のための環境整備 | 同左 | - 3 - 1 世界トップクラスの研究施設整備、並びに、外国人研究者・留学生のための宿舎の整備、地域と連携した生活支援体制の構築などキャンパスの国際化推進のための環境整備 | |

| 項 目 | | 取 扱 | 2006年度改定版 |
|--|--|-----|-----------|
| 組織運営 | | | |
| - 1 現場サポートの強化： 業務改善の推進 と教育研究時間の確保 | | | |

| | | |
|---|-------|--|
| <p>－ 1 - 1 協調系の発掘、協調系研究教育活動の支援、資金獲得支援等のための研究支援オフィスの構築</p> | 改定 | <p>－ 1 - 1 協調系の発掘、協調系研究教育活動の支援、資金獲得支援等のための財務戦略室の構築</p> |
| | 追加 | <p>－ 1 - 2 業務改善を日常的な活動に高め、自律サイクル化</p> |
| <p>－ 1 - 2 部局パートナー（飛車角方式）の活用</p> | 同左 | <p>－ 1 - 3 部局パートナー（飛車角方式）の活用</p> |
| <p>－ 1 - 3 国際、産学連携等の機能別部局連携ネットワークの強化</p> | 同左 | <p>－ 1 - 4 国際、産学連携等の機能別部局連携ネットワークの強化</p> |
| <p>－ 1 - 4 ポスト知的財産本部整備事業への対応、研究成果の技術移転に関する専門人材の育成</p> | 同左 | <p>－ 1 - 5 ポスト知的財産本部整備事業への対応、研究成果の技術移転に関する専門人材の育成</p> |
| <p>－ 1 - 5 情報システムの強化に基づく教育研究情報の効率的管理</p> | 同左 | <p>－ 1 - 6 情報システムの強化に基づく教育研究情報の効率的管理</p> |
| <p>- 2 教育研究支援職員の育成</p> | | |
| <p>－ 2 - 1 教育研究支援職員の責任範囲を拡大し、任せることにより、その能力向上を図る</p> | 同左 | <p>－ 2 - 1 教育研究支援職員の責任範囲を拡大し、任せることにより、その能力向上を図る</p> |
| | 追加 | <p>－ 2 - 2 教員と職員が一体となって経営に関する企画を行う体制を確立</p> |
| <p>－ 2 - 2 職員の持つべき能力を示して、そこに向けたスキルアップとキャリア形成のモデルを提示</p> | 同左 | <p>－ 2 - 3 職員の持つべき能力を示して、そこに向けたスキルアップとキャリア形成のモデルを提示</p> |
| <p>－ 2 - 3 職員の人事の改善、組織の見直し、業務の見直しを一体的に推進</p> | 小項目追加 | <p>－ 2 - 4 職員の人事の改善、組織の見直し、業務の見直しを一体的に推進：「改善プラン」の具体化</p> |
| | 追加 | <p>A 人件費の将来見通しを踏まえつつ、職員の採用可能数を全学的に調整する仕組みを確立</p> |
| | 追加 | <p>B 職員の採用については、東大独自の公募や、選考採用を活用し、有能で意欲のある職員を確保</p> |
| | 追加 | <p>C 人事異動を工夫しつつ、本人にキャリアプランを考えさせ、幅広い経験と、専門的能力の育成を両立</p> |
| | 追加 | <p>D 自己啓発の機会の拡充など、能力開発の体系を豊富にするとともに、目標管理方式を実施</p> |
| | 追加 | <p>E 国際業務堪能職員及び情報業務堪能職員</p> |

| | | |
|---|----|---|
| | | 員の確保と活用を推進 |
| | 追加 | F 技術職員及び図書職員のあり方を改善 |
| | 追加 | G 短時間有期雇用職員及び派遣職員のあり方を改善 |
| | 追加 | H 高齢者雇用について、計画的に対処 |
| | 追加 | I 評価の仕組みと給与体系のあり方の検討を進め、段階的に実施 |
| | 追加 | J 組織の見直しを本部でさらに徹底するとともに、全学の事務組織に波及 |
| - 3 柔軟な組織試行による教育研究活性化の支援 | | |
| - 3 - 1 多様なスタイルの教育研究活動の支援 （「認定組織」や「アフィリエイト（ア ジャンクト）組織」） | 同左 | - 3 - 1 多様なスタイルの教育研究活動の支援 （「認定組織」や「アフィリエイト（ア ジャンクト）組織」） |
| - 4 教職員の適切な評価 | | |
| | 追加 | - 4 - 1 業務の効率的・効果的遂行と人材育成等 のための職員評価の実施 |
| | 追加 | - 4 - 2 教育研究力の向上と教員評価のあり方の 検討 |
| - 5 働く意欲を喚起する給与等システムの東大モデルを構築 | | |
| - 4 - 1 東京大学の強化に貢献した人々へのイン センティブを与える制度の検討 | 改定 | - 5 - 1 東京大学の強化への貢献にインセンティ ブを与える制度の検討 |
| - 4 - 2 東京大学の国際競争力を担保し、魅力あ る勤務環境の整備 | 改定 | - 5 - 2 東京大学の国際競争力を担保するよう な魅力ある勤務環境の整備 |
| - 6 次世代育成支援及び男女共同参画のための環境整備 | | |
| | 追加 | - 6 - 1 女性研究者支援の推進 |
| | 追加 | - 6 - 2 男女職員ともにワークライフバランスが 可能となるような勤務環境の整備 |
| | 追加 | - 6 - 3 学内の重要な役職における女性比率の向 上 |
| - 7 バリアフリーの実現と構成員の多様性を育むための環境整備 | | |
| | 追加 | - 7 - 1 ハンディキャップのある学生や教職員 が、可能な限り健常者と同様な条件で活 動できる仕組みの実現 |

| | | |
|---|----|---|
| | 移動 | - 7 - 2 バリアフリーなキャンパスの整備 |
| | 追加 | - 7 - 3 バリアフリーシステムのあり方について学問的な体系化を図るとともに、バリアフリーに深い理解を持つ人材を育成 |
| - 8 全学的意思決定システムとコミュニケーションの高度化 | | |
| - 5 - 1 総長補佐の少数精鋭化・意思決定支援の強化 | 同左 | - 8 - 1 総長補佐の少数精鋭化・意思決定支援の強化 |
| - 5 - 2 理事の責任体制の明確化と連携強化 | 同左 | - 8 - 2 理事の責任体制の明確化と連携強化 |
| - 5 - 3 適切な情報開示による総長室の活動の透明化 | 同左 | - 8 - 3 適切な情報開示による総長室の活動の透明化 |
| - 6 - 1 部局や教職員・学生との意見交換の拡充 (朝食会、web上の掲示板等の活用) | 改定 | - 8 - 4 総長・役員と、部局や教職員・学生との間の意見交換の拡充(朝食会等の活用) |
| - 6 - 2 理事・幹部職員の「オフィス・アワー」の創設 | 削除 | |
| | 追加 | - 8 - 5 危機管理体制の構築 |
| - 9 人事管理の自由度の拡大 | | |
| - 7 - 1 人事制度ルールのモデル提示とオプション化 | 同左 | - 9 - 1 人事制度ルールのモデル提示とオプション化 |
| - 7 - 2 人事運用の包括化 | 同左 | - 9 - 2 人事運用の包括化 |
| - 10 世界有数の総合大学にふさわしい病院の強化 | | |
| - 8 - 1 総合大学と社会との接点としての病院機能の強化支援 | 同左 | - 10 - 1 総合大学と社会との接点としての病院機能の強化支援 |
| - 8 - 2 病院財政基盤の強化 | 同左 | - 10 - 2 病院財政基盤の強化 |
| - 8 - 3 保健センターの機能強化を目指した組織的位置づけの検討 | 同左 | - 10 - 3 保健センターの機能強化を目指した組織的位置づけの検討 |

| | | |
|--------------------|----|-----------|
| 項 目 | 取扱 | 2006年度改定版 |
| 財 務 | | |
| - 1 制度的制約の緩和に向けた努力 | | |

| | | |
|---|----|---|
| - 1 - 1 資金運用、資産活用、起債、長期借入、寄附税制、投資、費用省令などに関する規制緩和を要望 | 同左 | - 1 - 1 資金運用、資産活用、起債、長期借入、寄附税制、投資、費用省令などに関する規制緩和を要望 |
| - 1 - 2 予算執行の自由度の拡大のための、政府調達、監査体制等の規制緩和を要望 | 同左 | - 1 - 2 予算執行の自由度の拡大のための、政府調達、監査体制等の規制緩和を要望 |
| - 2 多様性と総合性とを両立させる予算制度の構築 | | |
| - 2 - 1 総長裁量経費あるいは部局長裁量経費を有効活用するためのルール構築 | 同左 | - 2 - 1 総長裁量経費あるいは部局長裁量経費を有効活用するためのルール構築 |
| - 2 - 2 自律分散系への基礎的教育研究経費配分額を高く担保できる予算構造の構築 | 改定 | - 2 - 2 自律分散系の アクティビティ を高く担保できる 財務・予算 構造の構築 |
| - 2 - 3 自律分散系の連携・協調を 予算的にも 促進・支援できる 構造 の構築 | 改定 | - 2 - 3 自律分散系の連携・協調を促進・支援できる 財務・予算構造 の構築 |
| - 2 - 4 予算運用の 可能な限りの 柔軟化・包括化 | 改定 | - 2 - 4 予算運用の柔軟化・包括化 |
| - 3 調達の効率化など教育研究支援予算の執行体制の整備 | | |
| - 3 - 1 東京大学のスケールメリットを生かした調達の効率化 | 改定 | - 3 - 1 東京大学の 規模効果 を生かした調達の効率化と 購入物品・サービスの仕様の見直し |
| - 3 - 2 光熱水量等のコスト・マネジメントの構築 | 改定 | - 3 - 2 光熱水量等のコスト・マネジメント システム の構築 |
| - 3 - 3 効率化における部局メリットの明確化 | 改定 | - 3 - 3 調達 の効率化における部局メリットの明確化 |
| | 追加 | - 3 - 4 調達 の効率化メリットの捕捉と 新財源の積極的な活用方策の確立 |
| - 4 基金（エンダウメント）の確立・発展 | | |
| - 4 - 1 「基金」概念の明確化 | 改定 | - 4 - 1 「基金」 理念 の明確化 |
| - 4 - 2 目的型 寄付 の導入 | 同左 | - 4 - 2 目的型 寄附 の導入 |
| - 4 - 3 「東大 130」の遂行を通じて基金のコアを確立 | 同左 | - 4 - 3 「東大 130」の遂行を通じて基金のコアを確立 |
| - 4 - 4 大規模基金形成に向けての体制整備と活動の推進 | 同左 | - 4 - 4 大規模基金形成に向けての体制整備と活動の推進 |
| - 5 外部資金の獲得支援 | | |

| | | |
|--|----|--|
| <p>- 5 - 1 学内の教育研究プランの効率的聴取と整理（対応申請先など）の実行と、適切な相手へのアプローチ</p> | 改定 | <p>- 5 - 1 学内の教育研究プランの効率的聴取と整理（対応申請先など）の実行と、適切な予算化あるいは外部への申請</p> |
| <p>- 5 - 2 本学の学術ビジョンに基づく総合的・統合的課題に関する教育研究プランの組織化・予算化あるいは外部への申請の実行</p> | 同左 | <p>- 5 - 2 本学の学術ビジョンに基づく総合的・統合的課題に関する教育研究プランの組織化・予算化あるいは外部への申請の実行</p> |
| <p>- 5 - 3 上記の機能を支援する研究支援オフィスの設置</p> | 改定 | <p>- 5 - 3 上記の機能を支援する財務戦略室の設置</p> |

| 項 目 | | 取扱 | 2006年度改定版 |
|---|----|---|-----------|
| キャンパス環境 | | | |
| - 1 三極構造構想実現に向けて | | | |
| <p>- 1 - 1 三極構造構想に基づくキャンパス整備に関する財政的全体像の把握と整備手法の検討</p> | 同左 | <p>- 1 - 1 三極構造構想に基づくキャンパス整備に関する財政的全体像の把握と整備手法の検討</p> | |
| <p>- 1 - 2 本郷キャンパス：樹木等の保全と両立する機能充実（地下の利用）</p> | 同左 | <p>- 1 - 2 本郷キャンパス：樹木等の保全と両立する機能充実（地下の利用）</p> | |
| <p>- 1 - 3 駒場キャンパス：構内美化と施設整備の推進</p> | 同左 | <p>- 1 - 3 駒場キャンパス：構内美化と施設整備の推進</p> | |
| <p>- 1 - 4 柏キャンパス：国際キャンパス化、シンボルとなる世界トップクラスの研究施設の整備</p> | 同左 | <p>- 1 - 4 柏キャンパス：国際キャンパス化、シンボルとなる世界トップクラスの研究施設の整備</p> | |
| <p>- 1 - 5 3キャンパスの有機的連携</p> | 同左 | <p>- 1 - 5 3キャンパスの有機的連携</p> | |
| <p>- 1 - 6 千葉県、柏市、文京区など地域との連携</p> | 同左 | <p>- 1 - 6 千葉県、柏市、文京区など地域との連携</p> | |
| - 2 プロパティ・マネジメントシステムの構築 | | | |
| <p>- 2 - 1 国際化を視野に入れた、教育研究の活性化を保障する構内施設の運用</p> | 同左 | <p>- 2 - 1 国際化を視野に入れた、教育研究の活性化を保障する構内施設の運用</p> | |
| <p>- 2 - 2 コスト・マネージメントの視点の導入</p> | 同左 | <p>- 2 - 2 コスト・マネージメントの視点の導入</p> | |
| - 3 教育研究スペースの利用の最適化 | | | |
| <p>- 3 - 1 特任教員等を含めた新たな面積算定基準案の検討</p> | 削除 | | |

| | | |
|---|----------|--|
| - 3 - 2 学内スペースの利用状況に関する情報の共有 | 同左 | - 3 - 1 学内スペースの利用状況に関する情報の共有 |
| - 3 - 3 全学共通スペースの確保 | 同左 | - 3 - 2 全学共通スペースの確保 |
| - 3 - 4 図書収納庫や装置収納庫の設置 | 同左 | - 3 - 3 図書収納庫や装置収納庫の設置 |
| - 3 - 5 ニーズとアクティビティに応じた全学共通スペースの適正配分 | 同左 | - 3 - 4 ニーズとアクティビティに応じた全学共通スペースの適正配分 |
| - 4 サステナビリティに配慮した安全で快適なキャンパスの整備 | | |
| - 4 - 1 エコ・キャンパス、犯罪に強いキャンパス、 バリアフリーなキャンパス | 改定 移動 | - 4 - 1 エコ・キャンパス、犯罪に強いキャンパス |
| - 4 - 2 研究成果を活用した知的プロムナード整備 | 同左 | - 4 - 2 研究成果を活用した知的プロムナード整備 |
| - 4 - 3 耐災害性を備えたキャンパスの整備 | 同左 | - 4 - 3 耐災害性を備えたキャンパスの整備 |
| - 4 - 4 高クオリティな 厚生施設の整備 | 改定 | - 4 - 4 質の高い 厚生施設の整備 |
| - 5 情報システムの整備 | | |
| - 5 - 1 CIOを任命 | 改定 | - 5 - 1 CIOのリーダーシップによる「総合情報基盤機構」(仮称)の立ち上げ |
| - 5 - 2 部局の既存システムに配慮しつつ将来を見据えた情報環境を整備 | 同左 | - 5 - 2 部局の既存システムに配慮しつつ将来を見据えた情報環境を整備 |
| - 5 - 3 電子化情報資産の全学的充実とその活用により情報発信力を 強化 | 改定 | - 5 - 3 電子化情報資産の全学的充実とその活用により情報発信力 強化と業務改善 |

| 項 目 | 取扱 | 2006年度改定版 |
|--|----|--|
| 情報発信と社会連携 | | |
| - 1 研究成果・教育内容の積極的発信 | | |
| - 1 - 1 「淡青」・ホームページの 外部 発信力強化のための 整備と目的に応じた内容調整 | 改定 | - 1 - 1 「淡青」・ホームページの 国内外 への発信力強化 |
| - 1 - 2 「政策ビジョン研究センター」(仮称)等も活用した、学術情報の効果的発信 | 同左 | - 1 - 2 「政策ビジョン研究センター」(仮称)等も活用した、学術情報の効果的発信 |
| - 1 - 3 世界トップレベルの研究者・教育者との | 同左 | - 1 - 3 世界トップレベルの研究者・教育者との |

| | | |
|---|----|---|
| 知のネットワークを構築し、学問的・社会的な諸課題に対する取組みや成果を世界に向けて発信 | | 知のネットワークを構築し、学問的・社会的な諸課題に対する取組みや成果を世界に向けて発信 |
| - 2 世界を視野に入れた 21 世紀大学モデルの発信 | | |
| - 2 - 1 21 世紀の 大学モデル立案 に関する総合的調査・分析とデータ蓄積・活用を行い、社会へも積極的に公開 | 改定 | - 2 - 1 21 世紀の 大学モデル に関する総合的調査・分析とデータ蓄積・活用を行い、社会へも積極的に公開 |
| - 2 - 2 国立大学法人を充実・発展させるための制度改革案や財政面の改善提案を、高等教育ビジョンを踏まえつつ提示し、その実現のために各界へ積極的な働き掛け | 同左 | - 2 - 2 国立大学法人を充実・発展させるための制度改革案や財政面の改善提案を、高等教育ビジョンを踏まえつつ提示し、その実現のために各界へ積極的な働き掛け |
| | 追加 | - 2 - 3 2007 年の創立 130 周年を機に、「世界の知の頂点を目指す」東京大学の姿勢を国内外に発信する一連の事業を実施 |
| - 3 学内コミュニケーションの活性化 | | |
| - 3 - 1 「学内広報」の内容や 流通方法 の見直し、改善による、基本情報や問題意識の共有、 異なる学問分野の知的関心の越境の促進 | 改定 | - 3 - 1 「学内広報」の内容や 流通・活用方法 の見直し、改善による、基本情報や問題意識の共有 化の推進 |
| - 3 - 2 学内用ホームページの改善 による、学内情報の共有化、利便性の向上 | 改定 | - 3 - 2 ポータルサイトの構築 による、学内情報の共有化、利便性の向上 |
| - 4 社会連携の推進 | | |
| - 4 - 1 「知の構造化」を具現化する社会連携として諸プロジェクトを推進し、それらの事例を ブランディング に活用 | 改定 | - 4 - 1 「知の構造化」を具現化する社会連携として諸プロジェクトを推進し、それらの事例を ブランドとしての価値を高めること に活用 |
| - 4 - 2 東京大学産学連携協議会の活動活性化と情報発信チャンネルとしての活用 | 同左 | - 4 - 2 東京大学産学連携協議会の活動活性化と情報発信チャンネルとしての活用 |
| - 4 - 3 学内外サービス・産学連携 相談窓口の強化 | 改定 | - 4 - 3 学内外サービスの 強化（シーズ実用化提案会など） と産学連携 事務の効率化 |
| - 5 卒業生との交流 | | |
| - 5 - 1 卒業生のネットワーク化・東大の応援グループ（東大友会、「東大 130」後援会、ホームカミングデイ等）の育成による、大学と卒業生の実効性ある連携強化 | 同左 | - 5 - 1 卒業生のネットワーク化・東大の応援グループ（東大友会、「東大 130」後援会、ホームカミングデイ等）の育成による、大学と卒業生の実効性ある連携強化 |
| - 5 - 2 卒業生と学生との交流の場の形成による相互コミュニケーション・学生の視野拡大（世代間の知の継承） | 同左 | - 5 - 2 卒業生と学生との交流の場の形成による相互コミュニケーション・学生の視野拡大（世代間の知の継承） |